

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第56号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

5つの着眼項目を基に、2024年度の本会活動テーマは、「活動5年の調査研究事業実績から“ご近所福祉”を検証する」

2019年度の誕生した本会の規約の中に、「3つの活動基調」がある。

【焼津福祉文化共創研究会の3つの活動基調】

- (1) さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る。
- (2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす。
- (3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大にし、つねに市民生活に密着した活動をめざす。

すでに、会員数が減少する中で、結成当初の原点をしっかりと捉えながら、6年目の活動に取り組む。これまでも、毎年度の活動を振り返りながら、掲げた活動テーマに沿った、地域活動に取り組んできたが、改めてこれまでの5年間の活動から浮き彫りにした検証事項「地域ぐるみの居場所の検証」、「ご近所の支え合いの検証」、「子どもを取り巻く地域を検証」、「高齢者を取り巻く地域の検証」、「中学生のご近所その意識と実態検証」を今年度は、会員相互に意見を出し合い地域づくりを再確認するとともに、地域活動に関心のある地区住民の参加を呼び掛けながら、ホットとする「ご近所福祉」について研究協議をする。

併せて、協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、地域福祉教育教材としての「若者発 ご近所福祉かるた」を活用して、実践的体験的学びの場を開拓しながら、これまでの活用事例を整理するとともに、更なる有効活用に取り組む。

●5つの着眼項目

- ①会員はじめ、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」、「地域総合型学習」の醸成に努める。
- ②この5年間の「ご近所福祉の地域課題」を整理する。
- ③「協働による地域づくり」を基に、「地縁組織と志縁組織」を探る。
- ④「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を語り合う。
- ⑤地域福祉教育教材「若者発 ご近所福祉かるた」活用方法開拓とともに、活用事例集の作成を具体化する。

●主な活動内容

1. 定例研究会の開催 原則、毎月第2土曜日、18:30~21:00を定例開催日とする。
2. 事業関連部会設置と開催 今年度は、「共創社会実現研究会(調査部会)」を8回開催する。
3. 「ご近所福祉」を検証する。
「1年目活動:地域ぐるみの居場所検証」「2年目活動:ご近所福祉 その意識と実態調査検証」「3年目活動:児童の福祉意識検証」「4年目活動:高齢者福祉意識検証」「5年目活動:中学生ご近所意識検証」の5年間のあらゆる角度の取り組みから「ご近所福祉」を検証する。
4. 「若者発 ご近所福祉かるた」活用事例集の作成支援
協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、「若者発 ご近所福祉かるた」の活用状況を把握し、さらにご近所福祉の推進に努める。
5. 「地域発 福祉文化の創造」に向けた、広報啓発に努めるとともに、関係団体への積極的な情報提供に努める。



2023年度 赤い羽根共同募金助成事業/私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態検証事業⑩

476名の中学生から、大人社会への15の提言 その2

2023年度実施した、管内中学生476名の調査結果をまとめた「15の提言」を第55号に引き続き後半を掲載

- (9)住みよい地域であるとの回答が92%あった。大人社会にとって、大いに救われる回答結果である。小学生の回答から6%増となっている。管内の地域事情としては、長年の土地区画整理事業により、ハード面からのまちづくりにより、地域全体の環境が大きく変わり、「公園の整備」「防犯防災対策」等が改善されたことが回答結果からも伺える。
- 福祉視点からは、ご近所づきあいが良いも多い回答であり引き続き、大人社会が大いに努力していく領域もある。それぞれの地域性から、ご近所づきあいが悪いと回答している地域の中学生もいる。
- (10)今や、情報の多様化、複雑化等が進んでいる中で、中学生は、身近な地域の情報入手は、「家族」が一番多い回答であった。まず、大人社会が、積極的に地域に関わり、地域の動きを知り、常に地域の情報を細かく、わかりやすく、中学生に、日頃の家庭生活の中で話す環境づくりが求められる。
- IT時代の中で、意外と、中学生は、小学生よりも「回覧板」からの情報入手を心得ている。
- 身近な地域社会では、これまで長い間、今まで、回覧板の機能を維持している。
- 回覧板の必要性の有無が今日、コミュニティ組織の中で議論されている中で、改めて、いかにして、継続的に有効活用できるかの課題は大きい。
- (11)中学生は、地域に貢献したい思いを持っている。
- この思いは、女性は男性よりも積極的な面が伺える。男性も、積極的に、地域の課題理解に努めながら大人社会は、常に、地域の現状を中学生に「見える化」「わかる化」し、共通理解に努めたい。
- (12)身近な地域社会の中で、ほとんどの中学生は、日常的なふれあい交流や実体験の機会をもたない回答が93%あった。しかし、体験があったと回答した中学生7%の内容は、「家族に障害者がいる。」「親戚の障害者の方と交流」「ご近所福祉:地区的ふれあいサロンで地域の高齢者と交流した」「ご近所の付き合いを心掛けている」等、自然的な内容を回答している。まだまだ「福祉」を構えた受け止め方で、難しいと感じる地域環境でもあるようにも伺える。こうした面から、意識改革をし、誰もが、関われる福祉観を働きかけていく地域づくりを心掛けたい。
- (13)身近な地域社会で誰もが安心していく上で、必要な支援やサービスの回答は、「見守り・声掛け（安否確認）」「災害時の手伝い」「買い物支援」「話し相手」「簡単な介助・介護」「移動支援」「定期的なふれあいサロン」「配食」等、「大人社会に求めた回答とほぼ同じ内容の回答であった。また、地域参加活動のイメージは、「思いやりのあるもの」「まちづくり」「自ら進んで行う」「社会にとって必要」と前向きな回答。地域の現状をしっかりと受け止め、支え合う社会を望んでいることが伺える。
- (14)福祉活動として長い歴史をもつ「赤い羽根共同募金」の理解は、成長過程で、小学生の理解度よりも高い98%の回答であった。直接かかっている「学校募金」をはじめ、地域における「戸別募金」「職域募金」等の意義を、更に理解することを期待したい。
- (15)「ともに、助け合う地域づくりへの提言」（自由意見）では、中学生から283件の意見をいただいた。この具体的な意見から、「大人社会に向けた提言」として取りまとめると、
- ①若者にもわかる、地域活動の動きを知りたい。（地域活動の「見える化」「わかる化」）
 - ②若者の意見を地域活動に活かせる機会を考えてほしい。（誰もが参画する地域づくり）
 - ③若者も気軽に、地域の行事に参加出来る呼掛けを期待したい。（気軽に参加できる環境）
 - ④ご近所で、いつでも、地域のことが話せるようにして、住民が地域に関心をもつ努力。
 - ⑤地域の情報提供の工夫（広報啓発の開拓）

●2月3日開催した「地域を変える 中学生の“ご近所福祉”への提言」研修会の記録



Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第57号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

2024年度静岡福祉文化を考える会「ご近所福祉検証事業」に協働で取り組む 共創社会実現研究会がスタート

2024年度がスタートした。 本会の今年度の活動は、結成からこれまで5年間取り組んできた「地域ぐるみの居場所」「ご近所福祉」「子どもの福祉観」「高齢者福祉意識」「中学生のご近所認識」等、浮き彫りにした地域課題を検証することを掲げてスタートした。

その中で、共通のキーワード「ご近所福祉の検証」について、本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動（広域団体）助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」に関わり、このたび、4月13日（土）に「第1回共創社会実現研究会」が開催された。

この研究会は、今日、地域コミュニティへの参画の希薄化とともに、家族機能やご近所のささえあいは、制度や施策等公助ありきの意図的支援が当たり前のような社会環境になりつつある。

加えて、長引く、厳しいコロナ禍下において、ますます、地域コミュニティのつながりやご近所のささえあいが弱くなっている。こうした社会環境の中で、ようやく、地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に「静岡福祉文化を考える会」が取り組む、令和6年度 静岡県共同募金会 広域地域福祉活動助成事業「若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」を円滑に実施し、平成27年度及び令和3年度に、県共同募金会助成事業で作成・配布した「若者発 ご近所福祉かるた」による地域福祉教育の現状を把握し、「地域の支え合いの再構築」に向けた研究協議をし、今年度増刷する「若者発 ご近所福祉かるた」を有効活用拡大するための配布開拓の検討と共に、「かるた活用事例集」の企画編集、配布等を協議する目的で設置している。

本会は、令和3年度のかるた増刷とかるた利用の手引書作成事業にも、精力的に関わっている。

第1回研究会では、まず、今日の地域社会の現状について、会員それぞれの立場から現状を語り合った。

「コミュニティ組織の運営に若年層の参加意識が低いこと」「コミュニティ組織が、十分に地域全体に理解されていない」「積極的に、コミュニティ組織運営を見る化する努力が求められている」「十分に住民の意見が反映されていない」「コミュニティリーダーとしての役割を地域全体で共有していくこと」

「お互いに、近隣同士で挨拶できる環境づくりに努力していくこと」などの意見が出た。

次に、研究会の位置づけと当面の方向性を確認した。その後、これまで「若者発ご近所福祉かるた」を、配布提供している県内の各種福祉団体・福祉施設、地域グループ宛に、5月から6月にかけて「かるた活用状況調査」を実施し、新たに、今年度「かるた活用事例集」の作成につなげていくことを確認した。

「共創社会実現研究会」の開催日程等は、下記の通りである。

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	4月 13日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識① 調査実施協議(調査実施要項・調査個票) 調査配布計画
第2回	5月 11日(土)18:30 北川原公会堂	地域の現状認識② 調査票配布状況 調査票回答状況①
第3回	5月 25日(土)10:00 静岡市清水区	地域の現状認識③ 調査票回答状況②
第4回	6月 8日(土)18:30 北川原公会堂	調査票回収状況③ 調査票集計作業① 協働の課題
第5回	7月 13日(土)18:30 北川原公会堂	調査票集計作業② 調査票考察作業① 活用事例集編集①
第6回	9月 14日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集編集②
第7回	11月 9日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集発行及び配布先検討
第8回	12月 14日(土)18:30 北川原公会堂	事業総括



* 駿河湾からの5月の富士山とお庭のこいのぼり

令和5年度の定例研究会で紹介された「会員レポート」

結成4年目から、「定例研究会」で、会員が思い思いに、自由に語り合う時間を設けた。語り合う中で、会員相互に理解し合う機会をもち、それぞれの立場で、「地域を語る」場にもなった。

今年度も、継続していくことを確認した。「会員を知る」から、一步見えてきたことは、「語れる環境なくして、問題解決の一歩はない」。なかなか、地域では「建前の話し」しかできない。

こんなことを話しても、話が「共有」しない限り、進展はしない。「本音で話す」場を設けて、この一年間の取り組みから、検証できていることは、「公的機関・専門家による相談」が主流となり、いろいろと個別に対応する時代を迎えたが、今一度「地域の教育力」「地域で問題解決できる地域力」「世話焼きさん・おせっかい屋さんの復活」もほしいとの感想がでた2年目であった。

*第1回（5月）「所変われば、自治会・町内会の名称は違う 住民の意識変革で地域が輝く」

*第2回（6月）「なかなか、普段の生活において、“死”について話すことは出来ない 語れる環境の中で話してみたい」

*第3回（7月）ワーカーズコープ主催「“医師 中村哲 仕事・働くこと”で学んだこと」

*第4回（8月）「地域を知る、仲間づくり、楽しい時間をモットーに私の地域活動実践」

*第5回（9月）「地域に日頃から関心を持ち、関わっている立場から、地域（地域づくり）は、一体だれが担うのか？」

*第6回（10月）「地域密着型介護事業所と地域との共生の現状と、チームオレンジコーディネーターの委嘱を受けて感じること」

*第7回（11月）「今、改めて“居場所”を考える」

*第8回（12月）「娘との今まで、現在、そして、これから」

*第9回（1月）「防災訓練がもたらす恩恵」

*第10回（3月）「港第14自治会広報誌が誕生して10年、地域を“見せる化・見える化”が原点」



シリーズ① 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により作成した、身近な地域社会を世代を超えて地域を学ぶ、地域福祉教育教材としての「若者発 ご近所福祉かるた」を「シリーズ」で紹介する。 *問い合わせは、事務局まで

2年間にわたり、24回、延べ243名の若者が高齢者宅を訪問して、高齢者を取り巻くご近所のあり方を学び、400もの意見を「ご近所」を表現した46の「読み札」にまとめた。「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画した。これからのご近所の課題解決に向けて作成した。それぞれの「かるた」には、「キーワード」を強調して「解説」をした。



「**おすそ分け**」は、単なる物だけではありません。相手を思いやる心を添えた「**おすそ分け**」を心掛けていきましょう。

上下をつくるない、対等で、見返りを求めず、無理のない継続的信頼関係・・それがご近所福祉。

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第58号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局
〒425-0044 烧津市石津向町 15-17
百の木デイサービス石津内
Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731
編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

令和6年度 スタートして早や2か月経過 5年間を振り返りながら着実に取り組む 5月定例研究会（結成後通算第62回）から見えたもの

2024年度活動計画に基づきスタートして、早や2か月が経過した。今年度は、この5年間の活動を振り返りながら検証するとともに、協働団体：静岡福祉文化を考える会助成事業「若者発 ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」を連動して取り組むことを確認した。今年度も、「共創社会実現研究会」を立ち上げて、検証事業に取り組むことにした。

本会の活動を「見える化・見せる化・わかる化」していくために、広く情報発信していくことに努めている。「研究会通信」は、毎月1回発行し、メール送信50か所、紙媒体配布は12箇所約90枚。

「ブログアクセス件数」は、ここにきて、平均値より相当上回った動きである。毎日200件から300件内のアクセス件数である。「ご近所福祉」の検証議論では、コミュニティに関する希薄化が気になる。運営を全て軽減化する考え方をしっかりと問い合わせし、コミュニティの意義を共通理解することを期待したい。議論の中心になったのは「回覧板」。2024年度本会が実施した「私にとってご近所とは 中学生の意識と実態調査」結果考察では、設問に「あなたは、身近な地域の情報をどこから得ていますか」で、「回覧板」9%の回答がある。大人社会では、今日、回覧板機能を廃止する動きが表面化しているが、長い歴史的背景から、全ての住民に伝えていく機能を有する。改めて、回覧板の役割の基本的な認識を地域住民一人ひとりが持ちたいところである。回覧板機能の必要性を誰が正すか。平成25年(2013年)8月に、港第14自治会で、「自治会広報誌」発行の話があり、議論を重ねて、この年の11月5日に創刊号が発行された。自治会活動をもっと地域住民に理解してもらう大きな役割を担ってのことである。

今一度、自治会広報誌の役割の再認識の必要性とともに、もっともっと、地域住民が、地域を知る機会を積極的に心がけていきたい。
「たかが回覧板、されど回覧板」「たかが広報誌、されど広報誌」



*「若者発 ご近所福祉かるた」より

共創社会実現研究会経過報告 ②

「ご近所福祉の検証」を、本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動（広域団体）助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」に本会は協働で取り組むこととして、4月13日「第1回共創社会実現研究会」を開催した。すでに、第1回開催の内容は、前号（第57号）で報告した。今後は、このコーナーを通じて、研究会の経過を報告する。

5月11日開催した「第2回共創社会実現研究会」の協議内容の概要を報告する。

● 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用状況調査の実施について

これまで、「かるた」を配布提供した関係団体・地域・グループ・個人等に、どのように活用されたかを問い合わせ、今年度「かるた活用事例集」の編集に活かす目的で、6月末までを期間として情報提供をお願いした。主な項目：活用目的、展開方法、参加者層、活用時間、活用上の工夫、参加者の反応等

● 「若者発 ご近所福祉かるた」増刷と配布検討について

「かるた」の増刷作業は、既に、決定した印刷業者との一部修正作業の協議と納品時期を検討する。

配布提供先については、これまで、平成27年度、令和4年度に、「かるた」計200セット作成し、配布提供した実績を基に、今年度増刷する100セットは、地域別・領域別の検討を7月までに進める。

● 「若者発 ご近所福祉かるた」の「著作権」に関して、地域福祉の推進に積極的に有効活用していただき、活用目的を明確する。

焼津福祉文化共創研究会 事務局日誌拝見(4/1~6/01)

- 4/01 2024年度 6年目の活動スタート 「焼津福祉文化共創研究会通信第56号」発行
- 4/09 三島市民委員児童委員協議会研修会にて「中学生対象調査」の取り組み説明
- 4/13 2024年度「4月(第61回)定例研究会」開催 「第1回共創社会実現研究会」開催
 ■2024年度は、「ご近所福祉検証事業」に取り組む「静岡福祉文化を考える会」と協働による取り組みを確認し、本日より開催の「共創社会実現研究会」において「若者発 ご近所福祉かるた」活用事例集作成協議に関わる。
- 静岡福祉文化を考える会関連: 2024年度 静岡市ボランティア連絡協議会総会(静岡市)
- 4/20 2024年度 烧津市ボランティア連絡協議会総会及び代表者会出席(年会費納入)
- 5/01 「焼津福祉文化共創研究会通信第57号」発行
- 5/11 「5月(第62回)定例研究会」開催 「第2回共創社会実現研究会」開催
- 5/25 「第3回共創社会実現研究会」開催
- 6/01 「焼津福祉文化共創研究会通信第58号」発行

●「人的・物的・空間的・自然的」環境が地域を創る・港地域の季節(自然的環境)を味わう



*2023年の秋を彩った「コスモス畑」も、2024年の6月は、黄金色の麦が風になびく…そして、その周辺には「花ショウブ」が鮮やかに

シリーズ② 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「い」「う」 *問い合わせは、事務局まで



今、世代を超えた地域づくりに「居るだけのボランティア」は欠かせません。

若者も長寿者も、みんな揃って、ご近所に姿を見せているだけで、みんなの心が“ホッコリ”します。

運動会等地域の行事には、老若男女、地域住民がたくさん集まります。こうした伝統行事で「地域ぐるみの居場所づくり」を継続していきましょう。そして、大いに、声を掛けあいましょう。

「焼津福祉文化共創研究会」「静岡福祉文化を考える会」の活動状況を
「QRコード」で確認してみて下さい！

「地方発 福祉文化の創造」をさらに発信続けています。

本会活動の問い合わせは事務局まで



研究会QRコード 考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第59号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

令和6年度活動は、これまでの5年間を振り返しながら、6年目を着実に進む
6月定例研究会（結成後通算第63回）から見えたもの

● ブログアクセス件数が大幅にアップしている

本会結成以来、「ブログ」を立ち上げて、定例研究会議事録、本会通信(毎月発行)、各種成果物、各種研修会等のデータをきめ細かくアップし、活動の「見える化」「わかる化」に心掛けている。

「港地域支え合い講座のブログ」と「静岡福祉文化を考える会のブログ」を並行して、その都度、データをアップしている「6月統計表」は右記の通り。

研究会ブログは、1日約200件、考える会ブログ早く150件とアクセス件数が増加している

● 「ご近所福祉」を検証する② - 会員からの地域現状を語り合う -

・父子家族における緊急事態の地域の関わりは、日頃からのご近所づきあいの大切さ実感。母子家庭が多くなっている。特に、50・80問題は、地域の課題として、心掛けていきたい。

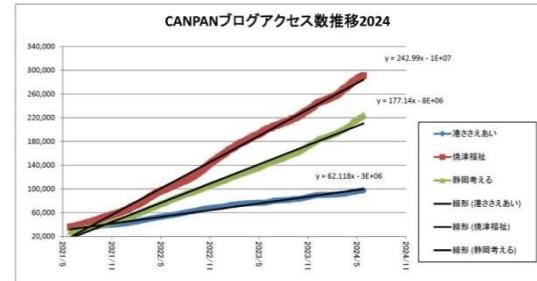
・最近、回覧板がスムーズに機能していない。世代を超えて、回覧板機能及び役割の理解に努め、地域の情報を共有できるように努めたい。

・先般、「浪藏劇団公演400回」の新聞記事の掲載があった。

平成21年度の考える会の県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」において、焼津市小川第11自治会をモデル地区として依頼したときに、「ご近所福祉イン小川」の事業に取り組んでいただき、コミュニティの活動を「見える化・わかる化」していくプログラムの一つとして、「浪藏爺さんを守れ」の寸劇上演。16年間で400回の継続公演に敬意を表したい。

・若い世帯が、町内会・自治会に加入しない傾向が生じている。こうした年代層に、「コミュニティの仕組み」とその必要性を誰が働きかけていくかの課題は大きい。

・民生委員児童委員改選期に当たり、民生委員の推薦・選出方法の理解、地区担当民生委員の理解必要。



花言葉: 美咲のグロリオサが開花



ミニひまわりも顔を出してきました

共創社会実現研究会経過報告 ③

「ご近所福祉の検証」を、本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動（広域団体）助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」に、本会は協働で取り組んでいる。

開催日程は、第1回4/13、第2回5/11、第3回5/25、第4回6/8、第5回7/17、第6回9/14、第7回11/9、第8回(最終回)12/14となっている。このコーナーでは、「共創社会実現研究会」の経過報告を順次報告する。第3回目は、第3回(5/25)第4回(6/8)の概要を報告する。

1. 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用状況調査の実施について(6月8日現在)

(1) 領域別活用回答状況(13か所)

a サロン・居場所 使用回答 3箇所 b 福祉施設 使用回答 1箇所
c 個人 使用回答6箇所 未使用回答1箇所 d 社協 未使用回答2箇所

(2)回答方法 a 郵送5箇所 b 手渡し3箇所 c FAX4箇所 d QRコード0箇所

2. 「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成及び配布計画について

(1) 現在までの編集作業状況について(40P仕立て)

①表・表紙(済) ②裏表紙(済) ③第1章：若者が高齢者から学んだ“ご近所の支え合い”(5P未)

- ④第2章：「“若者発” ご近所福祉かるた」の誕生から10年（4P末）
⑤第3章：“ご近所福祉検証期” の福祉文化実践からの提言（4P末）
⑥第4章：「“若者発” ご近所福祉かるた」には、沢山のキーワード満載（8P完了）
⑦第5章：各地域・領域から寄せられた活用事例を紹介します（18P末）
⑧第6章：「“若者発” ご近所福祉かるた」でつながる地域（1P完了）



機械で、あっという間の田植え（北川原）

(2)配布計画(200部)について

- ①郵便料金が10月1日より、大幅な値上げとなるため、当初10月20日以降配布提供作業を変更し、9月30日までに完了できるように努力をする。
 - ②これまでの実績をもとに、さらに、未配布領域への配布提供できるように、関係機関・団体等の協力をお願いしている。

燒津福祉文化共創研究会 事務局日誌掲見(6/1~7/10)

- 6/07 「焼津福祉文化共創研究会通信第58号」関係機関・団体等にメール発信

6/08 「6月（第63回）定例研究会」開催

6/12 「静岡福祉文化を考える会」協働事業の「かるた」増刷100セット納品(印刷費支払い済)

6/13 10月1日より、郵便料金値上げ公表に伴う、関連事業の前倒しの取り組み検討

6/19 「かるた増刷及び活用事例集作成」に関して、関係者との意見交換実施

6/22 当面の考える会助成事業取り組み確認

6/23 かるた配布提供先交渉作業 「かるた」配布提供発送準備作業

6/24 焼津市V連研修旅行(愛知県内の介助犬訓練センター)参加(原崎・平田)

6/27 会員宛に、7月定例会レジメ配布作業 「かるた活用事例集」編集作業具体化

7/01 かるた活用状況調査まとめ 菊川市会議において、本会活動状況報告

7/10 「研究会通信第59号」編集作業・配布、メール送信「かるた」配布提供先 最終確認

シリーズ③ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発ご近所福かかるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「え」「あ」 *問い合わせは、事務局まで



見知らぬ人でも、すれ違った時には軽く会釈を心掛けましょう。それだけで「**他者との関係づくり**」、そして、信頼関係が生まれる。



昔は、地域のあちこちに世話焼きさん（おせっかいやさん）がいました。人々や地域をつなぐ「世話焼きさん」復活を期待。



「焼津福祉文化共創研究会」は、平成28年度から平成30年度まで3年間にわたり、いかにして、共助・近助の地域を再構築することが出来るかを住民主体(管内住民有志24名の実行委員会結成)により「港地域さえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が学び合った。その後、学習から浮き彫りになった課題をもとに、令和元年度に会を結成し現在に至る。



研究会QB7-1

考える会QBコード

「静岡福祉文化を考える会」の活動と協働で、身近な地域に学び、浮き彫りになった課題を「見える化」「わかる化」し、「地方発 福祉文化の創造」を発信続けています。それぞれ「QRコード」を作成し、日々、情報発信に努めています。*本会活動の問い合わせは事務局まで*

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第60号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

本会の活動の原点「集める居場所から集まる居場所検証」から6年 あらためて、"地域ぐるみの居場所"を探る時期

本会は、今から9年前、港公民館（現港地域交流センター）で、3年間、住民主体で「港地域ささえあい講座」を開講し港地域の課題を浮き彫りにした。この課題をもとに学習し合う目的で結成し、6年目の活動に取り組んでいる。

活動1年目に、「静岡県コミュニティづくり推進協議会」の「コミュニティ活動集団助成事業」と「赤い羽根助成事業」で「ホットとする、つながる・支え合う“集まる居場所”を探る」をテーマに、港地域づくり推進会（港第14・23自治会）管内における、住民主体の「集まる居場所」を調査した。

今日では、介護保険制度改革により、身近な地域において、さまざまな仕組みづくりに取り組み、意図的に「集める居場所」の開設が進められている。本会では、「共助の再構築」をもとに、地域住民が自主的に交流している「集まる居場所」の調査を、会員により、管内の協力をいただき取り組んだ。よく、専門家は、



キーワード	心 境	場 所	自 発 性	主 役	人 数	ル ル	組織関係	相 性	開 催
集める居場所	建 前	公 的	誘われ 従 う	関係者 ボランティア	大 勢	あ り	あ り	無 視	月1回程度
集まる居場所	本 音	私 的	自発的 積極的	本 人 仲 間	4~5名程度	な し 自 発 的	な し 対	大 切	ほぼ毎日

と、「集める居場所」と「集まる居場所」を上記のような分類を示している。

この調査結果から、港地域で、自発的に自由に活動されている55の団体・グループを把握できた。

趣味、健康・スポーツ、創作、農耕園芸、地域福祉・高齢者福祉、多文化共生、子育て、歴史・文化、芸術、環境、防災等、実に幅広い領域にまたがっていることがわかった。

改めて、地域ぐるみの居場所について、コロナ明けのこの時期に、みんなで検証したい課題である。

共創社会実現研究会経過報告 ④

「ご近所福祉の検証」を、本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動（広域団体）助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」に、本会は協働で取り組んでいる。

開催日程は、第1回4/13,第2回5/11,第3回5/25,第4回6/8,第5回7/17,第6回9/14第7回11/9,第8回(最終回)12/14となっている。このコーナーでは、「共創社会実現研究会」の経過報告を順次報告する。第4回目は、第5回(7/17)の概要を報告する。

1. 「若者発 ご近所福祉かるた活用状況調査書」まとまる

*46団体・グループ・個人に調査をお願いし、29箇所(63.0%)から回答をいただいた。

No.	活 用 領 域	調査依頼数	調査回答数	活用回答数	活用未回答数
1	サロン・居場所	8 箇所	8 箇所(100%)	8 箇所	0 箇所
2	福祉施設	7 箇所	6 箇所(85.7%)	5 箇所	1 箇所
3	個人(地域実践者)	15 箇所	10 箇所(66.7%)	8 箇所	2 箇所
4	社会福祉協議会	16 箇所	5 箇所(31.3%)	3 箇所	2 箇所
計		46 箇所	29 箇所	24 箇所	5 箇所
%			63.0%	82.8%	17.2%

*回答方法は、郵送(34.5%)、手渡(24.1%)、FAX(27.6%)、電話(13.8%)、QRコード(0)

*活用領域別回答内容から(概要)

①「サロン・居場所」領域では、活用状況が積極的である。

より身近な地域で、地域住民とともに地域を学び合う教材として、積極的に活用されていることが理解できた。グループの中心的人材が交代をしたときに、引き続き有効活用していく工夫が求められる。グループ等の活動計画に「かるたの利用」を明確に位置づけ定着していくことが期待できる。

②「福祉施設」領域からは、通所事業所の活用が大半であった。

通所事業所では、利用者と支援者が、ともに地域を学び合う効果がみられる。

③「個人(地域実践者)」領域からの回答は、積極的に地域課題を問題提起する活用工夫が伺えた。家族で地域を語るなど、活用領域が広がっている。

④「社会福祉協議会」領域については、今後に期待する一面が伺えた。

2024年度は、18市町社協に「かるた」を配布提供する計画である。「かるた」の誕生から活用のプロセスをしっかりと伝え、市町社協管内の小地域福祉活動の推進における、具体的な地域福祉教育教材としての配布提供に努めたい。

2. 「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成状況について

上記の調査回答内容をもとに、前号(第59号)で提示した、各章立てに基づき、9月20日めどに編集作業を終わる。

焼津福祉文化共創研究会 事務局日誌拝見(7/10~8/1)

- 7/08 関係団体に、本会活動状況を報告するとともに、今後の協力をお願いする
- 7/10 「研究会通信第59号」編集作業・配布、メール送信
- 7/17 「7月(第64回)定例研究会」「第5回共創社会実現研究会」開催
- 7/20 協働団体(静岡福祉文化を考える会)助成事業「かるた配布提供事業」配布先調整作業
- 8/01 「焼津福祉文化共創研究会通信第60号」編集・発行、配布及びメール送信



シリーズ④ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「か」「き」 *問い合わせは、事務局まで



災害は、いつやってくるかわかりません。日々の生活の中で、家族で話し合い、「日頃の防災意識」を強める努力をしていきましょう。



避難みち
話しながら
家族とともに
おこう



いつでも、どこでもボランティアのチャンスがあります。「ボランティア活動」、そこには、きっかけを見つける努力こそ大切です。



ボランティア
見つけきっかけを広げる

「焼津福祉文化共創研究会」は、平成28年度から平成30年度まで3年間にわたり、いかにして、共助・近助の地域を再構築することが出来るかを住民主体(管内住民有志24名の実行委員会結成)により「港地域さえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が学び合った。その後、学習から浮き彫りになった課題をもとに、令和元年度に会を結成し現在に至る。

「静岡福祉文化を考える会」の活動と協働で、身近な地域に学び、浮き彫りになった課題を「見える化」「わかる化」し、「地方発 福祉文化の創造」を発信続けています。それぞれ「QRコード」を作成し、日々、情報発信に努めています。*本会活動の問い合わせは事務局まで*



研究会QRコード



考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第61号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

8月焼津福祉文化共創研究会定例会議論 これまでの活動を振り返り 気になる“ご近所”の現状を語る

今年度の本会の活動テーマは「これまでの活動5年間の調査事業実績から“ご近所福祉”を検証する」を掲げている。令和元年度に結成してから、取り組んできた調査事業をここで、改めて取り上げると、

*1年目(令和元年度)「港地域の団体・グループ状況調査」(港地域のつながる・ささえあう集まる居場所検証)

*2年目(令和2年度)「ご近所福祉その意識と実態調査」(大人の福祉意識検証)

*3年目(令和3年度)「福祉ってなに?244名の子どもたちに聞きました調査」(児童の福祉意識検証)

*4年目(令和4年度)「ホッとする、安心した地域づくり その意識と実態調査」(高齢者の福祉意識検証)

「ご近所の支え合いを誰が担うか検証講座」(これまでの3年間の取り組み検証)

*5年目(令和5年度)「私にとって“ご近所”とは、中学生の意識と実態調査」(中学生の福祉意識検証)

これまで、取り組んできた調査では、それぞれ世代共通の「調査設問」を取り上げ、考察をしてきた。

全ての世代で「ご近所福祉は大切である」と回答しながらも、現状では、どのような関わり方をすればよいのか、身近な生活圏域の日常生活における課題は多いように受け止められる。

8月17日に開催した「第65回定例会」から、意見を交わし合った内容を紹介する。

(1)ご近所は、高齢者世帯が多くなっている。最近、地震の

や水害等が各地で発生している。各家庭では、非常持ち出し品等の点検をしているが、高齢者の意識の中

に、防災対策が弱いと感じる。災害が発生したとき、どうなるか心配である。地域住民すべてが、まずは「自助」努力することを心掛けたい。

(2)市内の活動集団の集会に参加して思うことは、それぞれの会員に、活動の目的意識が希薄していると感じている。それぞれの領域におけるリーダーの認識を自覚してほしい。また、こうした働きかけは、これから大きな課題となる。

(3)焼津市内の各領域の運営・取り組み状況を「資料情報」として、これまで、自治会・町内会組織に託して配布(発信)してきた。

最近、自治会・町内会単位で、役員の活動負担が表面化し、配布を取りやめる動きがある。

これまで、長きにわたり維持してきた、ご近所における「回覧板の仕組み」を、改めて、「回覧板のもつ意味」を理解し合い、各地域住民が、地域を知るうえで、どのような組織運用方法が求められるか、地域住民全体で考えるべき案件であり、単に、役員で、配布を拒否する状況は大きな問題を生じさせる。

円滑なコミュニティの運営を考えると、「情報」を共有し、これからのコミュニティ組織の運営のあり方を問う時期が来ている。毎月開催する組長会内容を回覧している地域がある。

(4)「福祉の原点は、家庭家族」 そして、その延線上に「親戚」関係がある。

こうしたつながりを、これまでの親たちは、日常の生活の中でつなぎ、子どもたちもそれぞれの関係づくりを維持してきた。大人社会(親)が、いかに、子どもたちに、家族や親せき、地域を繋ぐことが出来るかからの課題がある。

(5)静岡県内各地で、さまざまな「コミュニティ活動」に取り組んでいる「実践事例」を学んだ。

*小学校区における各種団体(49団体)等が連携・協働でコミュニティ活動に取り組み、地域行事を維持発展させるためにするために、地域住民に、常に「つなぐ」「見える化」に努力している。

*既存の「さわやかクラブ」が解散し、管内高齢者の集まる場所の開拓を自治会と協働で取り組む。

*大人だけの居場所から、親たちの交流の延線上で、各世帯の理解と協力の基にもう一つ、子どもの交流の場(居場所づくり)に取り組む。

*地域特性として、外国人労働者の受け入れと、日常生活の共生の維持の課題が大きい。地元自治会関係者で立ち上げている「多文化共生社会を考える会」の理解のもとで、新たな地域づくりをめざす。

ご近所福祉とは...

- お互いを認め合う
- 対等である 上下をつくらない
- 見返りを求めない
- 継続的である
- 無理がない

ご近所福祉 = おすそ分け

共創社会実現研究会経過報告 ⑤

「ご近所福祉の検証」を、本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動（広域団体）助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」に、本会は協働で取り組んでいる。

今回（第5回目）は、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の「第5章 かるた事例紹介」編集経過を掲載する。なお、「事例集」完成後は、「シリーズ」で、各領域における「事例」を掲載予

6月までに実施した「かるた活用状況調査」回答から、各領域のかるたの活用内容を参考にし、このたび発行する「かるた活用事例集」の「第5章 紹介します 各世代・領域の活用事例」は、「家庭・家族」「居場所・サロン」「コミュニティ」「福祉施設」「学校」「福祉団体」「その他：拡大かるた」の「各領域別活用項目」にし、さらに、「従来型（かるた取り）活用方法」「グループワーク的活用方法」「課題解決型活用方法」「その他の活用方法：ジャンケンゲーム・組合わせゲーム・伝承ゲーム」等の活用方法を提示している。各事例は、下記の項目により、具体的な展開方法を方向づけている。



進め方

楽しさの工夫

留意点

8月8日に、漫画家 法月理栄様（静岡県キャラクター“ふじっぴー”作者・本会かるたの絵札作画者）と「各種事例紹介」に、「イラスト」を組み入れたい旨相談をした。ご多忙の中、精力的に、一週間の短期間で、「19点のイラスト」を作画していただいた。上記イラストは、「家族・家庭 高齢者自身の学習」の事例に組み込まれている。

焼津福祉文化共創研究会 事務局日誌拝見(8/1~9/1)



本会QRコード



考える会QRコード

- 8/01 「焼津福祉文化共創研究会通信第60号」編集・発行、配布及びメール送信
- 8/04 協働団体（考える会）助成事業「かるた活用事例集」校正作業（～8/28）
- 8/08 協働団体（考える会）助成事業「かるた活用事例集」第5章:活用事例に、イラスト組み入れについて、漫画家 法月理栄様と協議 作画制作依頼
- 8/17 「焼津市V連絡協議会代表者会」に出席 「9月定例研究会」開催
- 8/30 協働団体（考える会）助成事業「かるた活用事例集」印刷業者に入稿
- 9/01 「焼津福文共創研究会通信第61号」編集・発行、配布及びメール送信



シリーズ⑤ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回（第5回）は「く」「け」＊問い合わせは、事務局まで



みんなの目がある地域は安心安全です。ご近所力で「防犯（安全）」強化を日常日頃から心がけましょう。



一人より二人、二人よりみんなと続くようです。「健康づくり」はご近所さん同士で「地域の輪」づくり。

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第62号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

本会の今年度の活動テーマ「5年間の活動を検証する」取り組み 9月「ご近所福祉」を語る①から、町内会・自治会を描いてみる

前号(2024.9.1発行・第61号)の「8月定例研究会の内容紹介」に引き続き、今回は、9月7日の9月定例研究会(第66回)における議論の概要を取り上げる。

①区画整理事業が完了後における、管内の大きな課題の一つとして「側溝清掃作業」がある。

これからの取り組みは、個々の世帯の責任の範囲で取り組む作業ではなく、長期計画に基づき、コミュニティ組織運営全般の中で、重要な作業として位置づけていきたい。

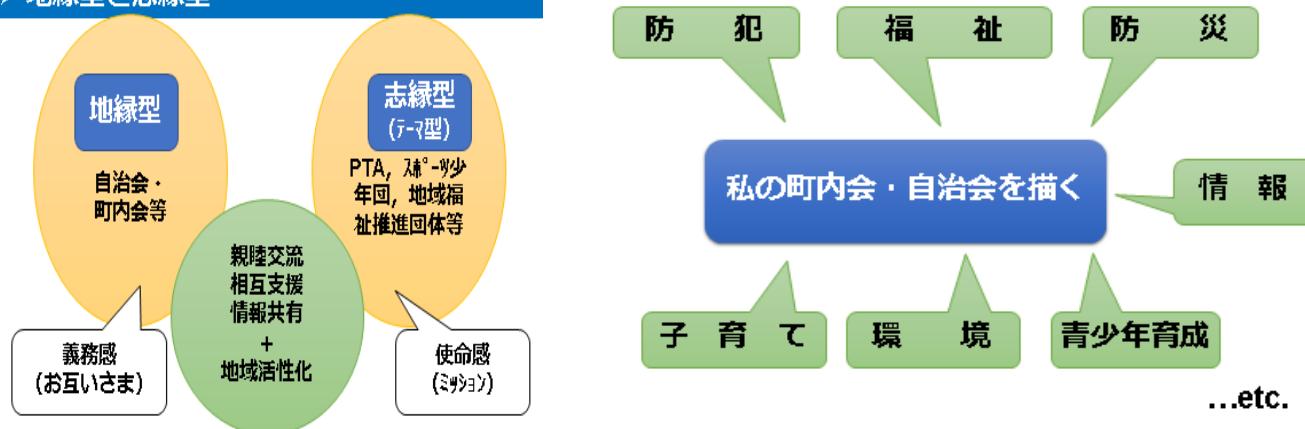
②コミュニティ組織は、継続的な組織・運営力と、調整機能力を共有していきたい。そのためにも、コミュニティ組織・運営の引き継ぎを確実にし、基本的規範をしっかりと理解しルール化していきたい。

③今こそ、各種地域行事による「地域力」の復活を期待したい。そのためには、組織や運営内容を常に「広報啓発活動」の重要性を維持し、「見える化」「わかる化」し、地域住民の参画を呼び掛けたい。

④公共施設の維持管理は、住民主体に柔軟性の工夫をしていきたい。

これまでに、町内会・自治会役員を経験した会員の立場から、ここでは「町内会・自治会機能」を描いてみる。「地縁組織」(義務感:お互い様)としての町内会・自治会は、管内のさまざまな「志縁組織」(使命感)と、地域の課題を改善・解決していくために、『協働』による取り組みの働きかけの工夫を期待したい。

▶ 地縁型と志縁型



●町内会・自治会を描いてみると：

その地域に生活する住民が、気軽につき合い、日頃から、必要な情報を共有し、安全・安心でより快適な生活を維持するために、自主的・主体的に活動に参加することを目的とする。

これまでの町内会・自治会活動を振り返ると、下記のようないくつかの「機能」を有していると感じる。

1. 問題解決機能

福祉、防火・防災、交通安全、防犯・非行防止、青少年育成、消費者問題、資源回収、生活改善などの地域の問題解決に関する活動

2. 生活充実機能

伝統行事(祭礼)、体育・文化行事など、地域の人々とのふれあい交流と親睦の促進に関する活動

3. 環境・施設維持機能

環境美化、清掃、衛生、そして、公会堂(集会所)などの施設整備・維持管理に関する活動

4. 情報(広報)共有機能

5. 行政・関係団体等との連絡調整機能

6. その他総合的機能

共創社会実現研究会経過報告 ⑥

「ご近所福祉の検証」を、本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動（広域団体）助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」の取り組みを紹介する。

今回（第6回目）は、9月7日開催した「第6回共創社会実現研究会」協議内容の概要を紹介する。

- 「若者発 ご近所福祉かるた増刷（100セット）」は、すでに納品済み。郵便料金値上げ前に、配布提供計画に基づき、発送が終わるように、「レターパック」に、配布提供先ラベルシール貼り、かるた保管ビニール袋に表示作業が終わり、「かるた活用事例集」が納品次第、9月末までに完了を目指す。
- 「かるた活用事例集」（A4版、40P、本文カラー印刷 200部）発行については、「発行企画書」に基づき作業に取り組んでいる。「第5章 紹介します 各世代・領域の活用事例」は、漫画家 法月理栄様に、「19点の作画」の協力をお願いし、ご理解をいただき、8月8日に具体的な協議を実施した。その後、8月16日までに、19点の作画データをいただき、各事例箇所に組み入れる。「完全原稿」で、9月2日入稿完了することが出来た。
- 関係団体等に事業の進捗状況報告
- 今後の「共創社会実現研究会」開催予定は、第7回(11/9) 第8回(12/14)
- 事業報告会予定 11月30日 2月22日の2回開催予定
- 「OUR LIFE 154号」で、「赤い羽根助成事業」の取り組みを関係方面に発信

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(9/1~10/12)

- 9/01 「焼津福文共創研究会通信第61号」編集・発行、配布及びメール送信
 9/07 「9月（第66回）定例研究会」「第6回共創社会実現研究会」開催
 本日 ブログアクセス件数 1,475件
 9/11 協働団体：静岡福祉文化を考える会・赤い羽根助成事業「かるた」及び
 「かるた活用事例集」を配布提供計画に基づき発送作業開始（～9/21）
 9/18 協働団体：静岡福祉文化を考える会赤い羽根助成事業に関して、
 • 県共同募金会へ事業経過報告
 • かるた活用事例集のブログアップ作業準備
 • 関係機関・団体等へ「かるた活用事例集」送付作業継続
 9/21 「今年度コミュニティカレッジ」で、「本会6年の活動検証」を事例紹介
 10/ 1 焼津福祉文化共創研究会通信第62号」編集・発行 配布及びメール配信
 10/12 10月（第67回）定例研究会開催



考える会QRコード



シリーズ⑥ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「こ」「さ」
 *問い合わせは、事務局まで



悩みを話せるご近所さんがいると、問題解決が
可能です。体験を語り合い「子育て支援」。



地域には、悩みを持った人・孤独な人がいます。長生きの秘訣は、地域の「仲間づくり」から始めましょう。

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第63号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局
〒425-0044 烧津市石津向町15-17
百の木デイサービス石津内
Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731
編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

今年度の活動テーマ

「活動5年間の調査研究事業の実績から“ご近所福祉”を検証する」

●令和元年度(1年目)「地域ぐるみの居場所を検証」を振り返る

今年度は、「活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する。」を活動テーマに掲げ、これまでの活動を振り返りながら、地域の課題を改めて確認することとして、毎月の定例研究会で、議論をしている。平成28年度から平成30年度まで開講した「港地域ささえあい講座」から、立ち上げた「焼津福祉文化共創研究会」の1年目の活動は、

●令和元年度「地域ぐるみの居場所検証」に取り組む

本会結成初年度は、「居場所」を議論しながら、集める居場所ではなく、集まる居場所を呼び掛けた。そして、尊い市民の赤い羽根共同募金「赤い羽根助成事業」と静岡県コミュニティづくり推進協議会の「コミュニティ活動集団事業助成事業」により、港地域づくり推進会管内の「集まる居場所調査」に取り組み、55の団体を把握し「活動グループ紹介冊子」と「港地域の“ご近所福祉”を切り拓く ホットとする、つながる・ささえあう集まる居場所検証報告書」にまとめ、「公開型研修会(調査報告会)」を開催した。



この時に、提言としてまとめた内容をもとに、10月定例研究会(10/12開催)で、現状を話し合った。

- *「地縁組織」で、地域課題をすべてを解決できる社会ではない。 さまざまな「志縁組織」と『協働』で取り組む(「行政」「社協」「市民」)心掛けを常にもちたい。
- *「専門性と市民性の融合」を基本とする地域づくりの取り組み。
- *高齢者自身も、地域参加する環境づくりに心掛けて、高齢者の意見を引き出すこと。
- *難しい福祉専門用語ではなく、わかりやすい表現をしてなじみをつくる。
- *「調査研究活動」を単発で終わらせない 繼続的に取り組む努力。 →本会は、5年間の実績あり
- *地域に存在する各種団体を「見える化」していく仕組みをつくり、相互理解に努める。
- *管内の地域課題を浮き彫りにし、だれもが役割分担をもって、地域参加する環境づくりを呼び掛ける。
- *管内の各種団体が連携して、情報を共有できる情報発信の工夫をしていく。
- *今日、「居場所」論議が積極的に行われているが、「なぜ、居場所なのか」の原点をしっかりと捉え、更には「集める居場所」ではなく「集まる居場所」を実現する努力をしていく。

キーワード	心境	場所	自発性	主役	人 数	ルール	組織関係	相 性	開 催
集める居場所	建前	公的	誘われ 従 う	関係者 支援者	大 勢	あ り	あ り	無 視	月1回程度
集まる居場所	本音	私的	自発的 積極的	本 人 仲 間	4~5 名程度	なし 自発的	なし 対 等	大 切	ほぼ毎日

●「この頃のご近所を語る」の意見交換の概要

- ①最近は、近所に救急車が来ても、あまり気にする様子が見られなくなった。
- ②高齢者世帯周辺に、小学生の出入りがあれば、間接的に地域を知ることが出来るが、子どもが成長するにしたがい、ご近所の話題は伝わらない。
- ③何気ない、日常的な挨拶ができれば話題が広がりご近所の動きが見える。
日頃の付き合いの工夫（いかに、共通の話題を出せるかの難しさ）
- ④役員交代後、基本的運営が維持される「町内会運営マニュアル」がほしい。
- ⑤ご近所内のコミュニケーションの取りにくさがある。（距離感、世代の差）
- ⑥近所づきあいの希薄化と終活のあり方（家族への負担をなくす）を気にする。道端の雑草も花瓶に生けると…



共創社会実現研究会経過報告 ⑦

本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動（広域団体）助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」の取り組みを紹介している。

今回は、「かるた及びかるた活用事例集」配布後、各方面から寄せられている意見を紹介する。

- *身近な地域社会を子どもたちが学ぶ授業で活用を検討していきたい。（小学校4年生担当教員）
- *「かるた」誕生の経緯を含めて、施設職員の研修会に活用したい。（社会福祉法人代表者）
- *施設利用者とボランティアのふれあい交流の機会に活用したい。（福祉施設職員）
- *外部講師依頼中心の定例会を今後は、会員相互の交流に活かしたい。（さわやかクラブ代表）

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(10/12~11/09)

- 10/12 10月（第67回）定例研究会開催
 10/16 かるた活用事例集に関するマスコミへの情報提供(静岡市内にて)
 10/16 焼津福祉文化共創研究会通信第63号編集作業
 10/17 10月（第67回）定例研究会議事録作成、ブログアップ依頼
 10/18 中部地区身体障害者女性部研修会にて、本会の活動紹介
 10/28 島田市内のサロン訪問（考える会が提供したかるたについて説明）
 11/01 焼津福祉文化共創研究会通信第63号発行・配布・メール送信作業
 11/09 11月（第68回）定例研究会開催 第7回共創社会実現研究会開催



考える会QRコード

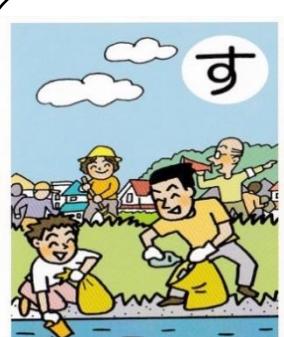


シリーズ⑦ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「し」「す」
 「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。
 *かるた等の問い合わせは、事務局まで



大災害で実証されたように、「隣人」は頼りになります。普段から「隣組」との関わりをもつたお付き合いを心掛けましょう。



リーダー（町内会長・民生委員等）にだけおまかせでは、本当の地域づくりではありません。住民参画で「地域づくり」をしよう。

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第64号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

今年度の活動テーマ

「活動5年間の調査研究事業の実績から“ご近所福祉”を検証する」

●令和2年度(2年目)「ご近所福祉その意識と実態調査」を検証

2024年度は、「活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する。」を活動テーマに掲げ、これまで実施した「調査の検証」について、毎月の定例研究会で議論をしている。今回は、11月定例研究会（11月9日開催）で、本会2年目の「ご近所福祉その意識と実態調査」の検証を紹介する。

●令和2年度「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組む

本会結成2年目は、尊い市民の赤い羽根共同募金「赤い羽根助成事業」と静岡県コミュニティづくり推進協議会の「コミュニティ活動集団事業助成事業」により、「ご近所福祉その意識と実態調査」を実施した。10月1日～31日の間、港地域づくり推進会管内（港第14・23自治会）の20歳以上の人々を対象に、29の設問を回答いただいた。主な調査項目は、「基本属性」「地域との関わりの意識」「地域との関わりの実態」「地域参加の動向」「地域環境」「提言」。調査実施に当たり、各自治会役員の皆さんをはじめ、港地区民生委員・児童委員協議会、地域実践者等の協力により、345名（回答率95.8%）の市民の皆さんから回答をいただいた。11月から1月にかけて、会員による集計及び分析作業に取り組み、(調査報告書)としてまとめることが出来た。この調査結果を、2月28日、石津コミュニティ防災センターにおいて「基調報告：調査の意義」「調査報告：調査結果から何が見えたか」「円卓トーク：私のご近所を語る」をプログラムにして、「公開型調査報告研修会」を開催した。当日は、民生委員、自治会役員、地域住民、福祉施設職員、行政職員、社協職員、市会議員、マスコミ等40名が参加された。



●「2年目の調査検証」考察概要

1. 本会結成から3年間のプロセスによる「ご近所福祉」を検証できた。
2. 「協働」重視による「調査研究活動」の発展性に心掛けた。
3. 本会初めての、手づくりによる「調査研究活動」は、「信頼性」と「均等化」を念頭におきながら、管内地域住民への協力を呼びかけ、「基本属性」をもとに考察し、課題提起が出来る努力をした。
4. 地域との関わりの意識に関する考察から、住んでいる地域の人々との交流が大切だと意識している。“超高齢社会”の今「生活の支え」の意識は、「家族の支え」「地域の支え」「自分自身の支え」の順。
5. 地域との関わりの実態に関する考察から、近所づきあいは、約9割満足傾向である。居住年数が長いほど、満足度は高い。日常における生活情報源は、「ラジオ・テレビ」②「インターネット」③「家族」④「新聞」⑤「友人・知人」⑥「回覧板」⑦「行政広報誌」⑧「自治会等発行広報誌」⑨「口コミ」。身近なコミュニティ組織の運営で、大きな課題は「地域の役員の選出」である。「推薦に応じない」が「推薦に応じる」を上回っている。
6. 地域参加の動向に関する考察からは、ともに助け合う地域づくりに向けて、活動しやすい地域環境としての回答結果は、①一緒に活動する仲間が多いこと ②個々人が気軽に参加できる活動の機会があること ③地域が抱えている課題の情報が提供されていること ④団体や活動に関する情報が入手。
7. 今後、地域において困った状態の時、在宅生活を維持するために必要な支援・サービスの回答の多い順に①「見守り・声かけ(安否確認)」②「災害時の手助け」③「同行(買い物・通院等)支援」④「話

し相手」⑤「移動支援」⑥「簡単な介助・介護」⑦「子育て支援」⑧「定期的なふれあいサロン(居場所)」⑨「配食」⑩「ゴミ出し」⑪「簡単な修理」⑫「掃除(草取り)」

コロナ禍の今、新たなふれあい・支え合う地域づくりに向けた取り組みは、①日頃からの挨拶・声掛け等近所付き合い ②日頃から各種会合や防災訓練に参加 ③地域の高齢者や障害者等の把握と情報の共有 ④地域と行政・福祉団体等との協働における支援体制の構築。

共創社会実現研究会経過報告 ⑧

本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動(広域団体)助成事業:若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」の取り組みを紹介している。

今回は、「第7回共創社会実現研究会」(11/9開催)の協議概要を紹介する。

- 「若者発ご近所福祉かるた」(100増刷分)は、「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」(9/12に200部納品済)とともに、配布提供計画に基づき、9月30日までに(郵便料金値上げのため)、「レターパック」で、52箇所に発送した。約40%確認の連絡有。早速、活用状況の連絡有。
- 「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」の作成については、漫画家 法月理栄様の多大なる協力により、短期間に「イラスト」の作成にあたっていただき完成した。
- 今後、「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」(11/30開催)、「第2回公開型研修会」(2/22開催)において公表する。
- 「赤い羽根助成事業実施報告書」は、3月10日に、県共同募金会に提出をする。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(11/09~12/14)

- 11/09 11月(第68回)定例研究会開催 第7回共創社会実現研究会開催
 11/30 協働団体:静岡福祉文化を考える会の第222回委員会及び「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」開催し、赤い羽根助成事業に関する協議及び「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに、かるたの活用方法を研究協議
 12/04 西伊豆町仁科地域において「ご近所福祉」について協議
 12/12 菊川市において、「若者発ご近所福祉かるた」について紹介
 12/14 第69回定例研究会開催 第8回共創社会実現研究会(最終回)開催
 12/14 関係機関・団体等に本会の活動状況について情報提供実施
 12/14 焼津福祉文化共創研究会通信第64号発行 配布及びメール送信



考える会QRコード



シリーズ⑧ 若者発ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、協働団体:静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。 今回は「せ」「そ」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、事務局まで



世代間交流に心掛けて、若者の言い分、大人の言い分を聞き合う(傾聴)で、相互理解に努めましょう。



「そばにてくれる、それでいい……」なんて歌がありました。それだけで「癒される人間関係」をご近所で心掛けましょう。

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第65号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

明けまして おめでとうございます。
本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本会は、令和元年度に結成して、今年は7年目の活動に入ります。
地域の課題を学習する活動の目的及び活動基調をもとに歩んでまいります。

2025年 元旦 烧津福祉文化共創研究会一同



*島田市「うしお会」松本昭男様の2025年干支の彫刻作品

今年度の活動テーマ

「活動5年間の調査研究事業の実績から“ご近所福祉”を検証する」

●令和3年度(3年目)

「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査」を検証

2024年度は、「これまでの活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する。」を活動テーマに掲げ、これまで実施した「調査の検証」について、毎月定例研究会で議論をしている。

今回は、12月定例研究会(12月14日開催)で、本会3年目の「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査」の検証議論を紹介する。

●令和3年度「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査」に取り組む

本会結成3年目は、尊い赤い羽根共同募金「赤い羽根助成事業」により、管内の小川小学校・港小学校2つの小学校に通う4年生から6年生280名を対象に「福祉ってなに？○○○名子どもたちに聞きました調査」に取り組んだ。あくまでも、調査活動は、本会会員を基本にしながら、学校関係者との協議(調査個票の組み立ての助言と調査全般の協力)、管内子供会関係者への協力をはじめ、港地域づくり推進会(自治会関係者)や地区民生委員児童委員協議会への説明と協力等を呼び掛けた。

7月25日から9月20日までを調査期間として、単位子供会世話人による調査票の配布・回収依頼を中心、会員による個別訪問・児童の登校時の回収、自治会役員による調査呼掛け回収の協力等、幅広い調査活動を展開した。本会では、当初、150名程(対象児童の約50%)の調査票の回収を目標にしたが、港管内の各団体等のご支援とご協力により、244名(全体の87%)の回答をいただくことが出来た。

本会結成以来、「地域の福祉課題」をテーマに、2年間は、大人社会を対象に調査研究活動に取り組んできた。

2020年度取り組んだ「ご近所福祉その意識と実態調査」結果から、地域住民相互のつながりやささえあいが弱くなり、地域コミュニティへの関りは希薄化傾向にあることが浮き彫りになった。

こうした地域環境で生活している、次世代を担う子どもたちは、果たして「思いやりの心」が、確実に醸成されているか、加えて、厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうか、問い合わせ時期が来ていることを確認し、2021年度(活動3年目)は「子ども」を対象にした、「調査研究活動」を活動の主軸とし、管内の関係団体、学校関係者や子ども会関係者に協力を呼び掛けた。

▶ 2021年度調査概要

- 調査対象児童：小学4年生～小学6年生
- 管内対象児童は誰人？「150名」の根拠は？
- 学校関係者・子供会関係者に確認し、280名の対象児童がいることが判明。協働による活動。
- 調査実施フロー：



●「調査研究会」の立ち上げと「本会定例会」で「調査内容」検討

「基本属性」「生活状況(子ども自身)」「家庭・家族のこと」「地域社会・地域活動のこと」「体験事例」「地域への期待」の各項目を設定し、子どもたちを取り巻く地域環境課題を改善・解決し「共生社会」をめざし、地域社会に提言することを目的とした。調査実施時期は、地域で取り組むための働きかけが必要であること、コロナ禍下、地域への負担をかけない様に、早目に調査協力を呼び掛けていくなどを念頭に、夏休み期間を活用していくことにした。

過去には、自治会・町内会加入は当たり前としてきた時代から、今では、未加入の世帯も存在している。

そこには、地縁団体とはいえ、「任意団体」であり、強制はできない社会の仕組みがある。

また、「子ども会」「婦人会」「青年団」等の「志縁組織」が「自治会・町内会」の「地縁団体」が協働で

地域を融合してきたが、今日では、「志縁団体」は、その機能が弱まり、各団体の果たすべき目的が薄れ、複雑多様化した社会構造になりつつあることを再認識できた。また、地域社会を取り巻く子どもの状況把握が必要であることも確認した。



*調査研究会や定例会で議論

*夏休みが終わり、登校した子どもたちから調査票回収

●協働による調査で、回収率87%をもとに考察

各自治会・町内会、子供会世話人の皆様方の多大な協力により、150名の回収目標を大きく上回る244名(87%)から回答をいただくことが出来た。

基本属性(「性別」「学年別」「地域別」「家族構成別」「兄弟姉妹別」)のクロス集計作業をもとに、24の設問項目の調査結果を「生活に関すること」「家庭・家族に関すること」「地域社会・地域活動に関すること」「福祉との出会いに関すること」「これからの地域の支え合いへの提言」の「6つの領域」に分けて考察し、「調査報告書」として取りまとめた。

そして、コロナのため延期をした、「調査報告研修会」を翌年度の関連事業とともに組み立てて、開催した。

●調査研究活動から見えたこと

- (1)「与えられる福祉」から「創る福祉」
そこには「ニーズ把握」が必要であること
- (2)「地縁」と「志縁」による「協働」の地域づくり
- (3)改めて、プロセス重視から「共創による地域づくり」

●子どもから、地域社会(大人)への提言

- ① 安全で安心な地域環境を維持していくこと
- ② 自然に恵まれた身近な生活圏域で、子どもたちが伸び伸びと自由に集まる場所があること
- ③ 安心して、ふれあい交流のできる公共施設(公園)が整備されていること
- ④ 世代間交流が自由に出来る地域ぐるみの地域行事が継承されていること
- ⑤ お互いに、顔が見える関係が維持されている地域環境があること
- ⑥ 優しさ・思いやり・助け合いの心を育み、いつでも挨拶・声かけが出来る語れる地域環境であること



共創社会実現研究会経過報告 ⑨

本会と協働で取り組んでいる「静岡福祉文化を考える会」が、今年度「赤い羽根共同募金地域福祉支援活動(広域団体)助成事業:若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組むに当たり設置した「共創社会実現研究会」の取り組みを紹介している。

今回は、最終回の「第8回共創社会実現研究会」(12/14開催)の協議概要を紹介する。

1. 協働団体の「静岡福祉文化を考える会」制作の「若者発ご近所福祉かるた」を、10年間にわたり県内各地に配布提供した団体・福祉施設から、活用状況を把握する機会をもつことが出来た。
2. 昨年度の見積書をもとに、印刷業者との協議により、作業を進めようとしたが、1年前の見積もり価格では、事業の取り組みが難しい(値上げ要求)があったが、最終的には、印刷業者の歩みより、「全頁カラー刷」「厚手表紙」による仕上げとなった。
3. 3回目のかるた増刷100セットを、効果的に活用するために、関係団体との協議をして、「かるた配布提供計画」を確実に立てて、52箇所に配布作業を完了することが出来た。
4. 「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」をより「見える化」「わかる化」「見せる化」するための工夫として、かるた絵札作画者である、漫画家 法月理栄様に協力要請をし、その後、協議を重ねて短期間に、19のイラストの作成を仕上げていただき、していただき制作が実現できた。
5. 昨年10月の郵便料金の大幅な値上げによる負担を軽減するため、当初、関係方面へのかるた及びかるた活用事例集は、9月中旬に発送作業早めることとして、事業の展開を前倒しにする努力をした。
6. 事業全体を前倒しに展開したことで、関係方面への「ご近所福祉検証」を深めることが出来た。
配布提供した関係団体・福祉施設から、活用状況報告あり。
また、かるた作成の意図を改めて周知徹底することが出来た。
7. 10年間の事業の継続化により、関係方面に「地域づくりの再構築」「ご近所福祉の掘り起しと推進」(学校・地域への問題提起)を積極的に働きかけることが出来た。
8. 県民に対する、今回の事業の報告研修会は、「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」(11/30開催)及び「第2回公開型研修会」(2月22日/静岡市清水区追分 寄って亭)において、研修テーマ:大いに語ろう 私のご近所のこれからを描くー“若者発”ご近所福祉かるた10年を検証するーで開催
9. 「赤い羽根助成事業」の最終報告は、3月10日「県共同募金会」へ「実施報告書」提出



2025 干支クラフト作品(本会協力者より)

シリーズ⑨ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、協働団体:静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。 今回は「た」「ち」 「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、事務局まで



少子超高齢社会の今だからこそ、地域住民一人ひとりがお互いに歩み寄り、アイディア(知恵)を出し合い、地域ぐるみで「地域福祉」を推進しましょう。

伝統的なお祭りや食文化は、次世代にしっかりと伝えていかなければなりません。身近な地域の「地域文化」の発見と発展に努めましょう。

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第66号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

今年度の活動テーマ：「活動5年間の調査研究事業の実績から“ご近所福祉”を検証する」

●1月定例研究会で、令和4年度(4年目)

「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」を検証

2024年度は、「活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する。」を活動テーマに掲げ、これまで実施した「調査の検証」について、毎月の定例研究会で議論をしている。今回は、1月定例研究会（令和7年1月11日開催）で議論した、本会4年目の「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」（高齢者対象）を紹介する。

●令和4年度「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」に取り組む

本会結成4年目は、公益財団法人さわやか福祉財団助成事業により、「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」を実施した。

令和4年10月1日～31日の間、港地域づくり推進会管内（港第14・23自治会）の20歳以上の大を対象に、29の設問を回答いただいた。主な調査項目は、「基本属性」「地域との関わりの意識」「地域との関わりの実態」「地域参加の動向」「地域環境」「提言」。

調査実施に当たり、各自治会役員の皆さんをはじめ、港地区民生委員児童委員協議会、地域実践者等の協力により、345名（回答率95.8%）の管内の皆さんから回答をいただいた。11月～1月にかけて、会員による集計及び分析作業に取り組み、（調査報告書）としてまとめることが出来た。

この調査結果を、令和5年2月28日、石津コミュニティ防災センターにおいて「基調報告：調査の意義」「調査報告：調査結果から何が見えたか」「円卓トーク：私のご近所を語る」をプログラムにして、「公開型調査報告研修会」を開催した。当日は、民生委員、自治会役員、地域住民、福祉施設職員、行政職員、社協職員、市会議員、マスコミ等40名が参加された。

●「4年目の調査検証」考察概要

1. 「プロセス」重視から取り組んだ高齢者対象の調査であった。
2. 会員自ら高齢者に向き合う、「共生社会」を学ぶ調査であった。
3. 「協働」による地域づくりへの問題提起を地域社会に実施できた。
4. 「共生社会」をキーワードに「参加する福祉」を探ることが出来た。
5. 「地域を見る化」し、地域課題を市民が共有する問題提起をした。
6. 高齢者（管内の高齢者315名の回答）の生活状況、家庭・家族との関わり、地域との関わり（意識と実態）、地域参加、地域環境からホッとする豊かな地域づくりを拓く、「地域共生社会の仕組み検証」の考察提言をした。



*2025.1.3 旧小川港海辺のカモメ

●地域ぐるみの居場所をめざして・・・・

高齢者が望む、地域の居場所の運営（環境）の全体的な回答からの考察は、「語れる、対等で自由な環境が保障されていること」「参加者が主体であり、上下の関係がなく対等な関係が維持されていること」

「居場所が住民をつなぎ、共助関係を維持できる」「地縁団体組織で継続的な運営基盤が保障されていること」で、「ボランティア主体、福祉施設等の依存」の回答は低い。「居場所」の課題として大きく取り上げられるのは、男性が居場所に来ない、と話題になる。今回の回答でも、女性の方が男性より柔軟で自由な環境を求めている傾向が伺えた。本来、真の居場所は「家庭・家族」が原点であるとも言われている。しかしながら、「家庭・家族」の居場所から、地域を組織化し「地域を家庭化する機能」により、いかにして生活圏域において「居場所」をつくり上げることが出来るか、住民それぞれの立場で課題を解決するこ

とができるかを考えなければならないことを提起したい。

いずれにせよ「居場所とは」「今なぜ、居場所か」を改めて問い合わせていきたい。



協働団体：静岡福祉文化を考える会の「2024年度赤い羽根助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に、本会は、今年度の活動を協働事業として、下記の事業内容に取り組んだ。

- ①本事業を円滑に取り組むために設置した、「共創社会実現研究会」（4月から12月まで8回開催）に出席し、意見を出し合った。
- ②「若者発ご近所福祉かるた活用状況調査」に関わった。
- ③「若者発ご近所福祉かるた」の配布提供先の協議に関わった。
- ④「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」の編集に関わった。



シリーズ⑩ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介している。 今回は「つ」「て」 「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、事務局まで



昔から今日まで、最も身近な情報伝達手段の「回覧板」。内容を家族みんなで理解し合いお隣さんに一声をかけて早く廻しましょう。



子どもは、家族や地域を構成する立派な一員です。「地域の子どもを地域で育む」地域環境づくりに日頃から努力していきましょう。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(1/11~2/8)

1/11 第70回定例研究会開催

1/18 焼津市ボランティア連絡協議会代表者会出席

2/08 焼津福祉文化共創研究会通信第66号編集・発行

2/08 焼津福祉文化共創研究会通信第66号メール送信・配布作業

2/15 第71回定例研究会開催



研究会QRコード 考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第67号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 烧津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

市民主体の“港地域ささえあい講座”3年間の開講から、本会結成6年 いよいよ2025年度は、「地域を学ぶ合う」7年目の活動に入る

改めて、本会結成の原点を振り返ると平成28年度に、「港地域を知る」「楽しくご近所同士が学び合う居場所」「みんなで支え合うアイディアを出し合う」等を基本に、平成30年度まで3年間、市民主体の実行委員会(25名)を結成し初年度は、「高齢者問題」を中心の学習テーマで開講。2年目は、身近な地域社会に目を向けたときに、学びたい課題として「児童を取り巻く問題」を追加し、更に、3年目には、「障害児者問題」を学習テーマに、参加者同士で意見を出し合う「ワークショップ方式」と、楽しく学ぶ「アイスブレーク」を組み入れて展開した。こうした3年間の講座の参加者の実績は下記の通り。



年 度	第1回	第2回	第3回	第4回	計
平成28年度	56名	48名	49名		153名
平成29年度	79名	60名	52名	59名	250名
平成30年度	50名	54名	52名	55名	211名
合 計					614名

延べ614名が学び合い、「港地域支え合い講座」における成果を下記のようにまとめた。

▶ 港地域ささえあい講座の実践活動の成果

1. 世代を越えて語れる環境づくり
2. 身近な地域社会の「福祉課題」を発見する(地域性)
3. 自助及び共助による地域創りと公助による協働の構築
4. 理論と実践、専門性(管内介護事業所、企業、学校)と市民性をいかに『融合』出来るかを検証する場
5. 集めるコミュニティから集まるコミュニティ
6. プロセス重視
7. 「見える化」「わかるか化」の工夫 通信発行
8. つながる、ささえあう港地域づくりの担い手は住民一人ひとりの意識啓発学習



講座から得た尊い地域づくりの礎をもとに、講座に関わった有志により、令和元年度に本会が結成して、ここまで6年間活動に取り組んできた。「集める」ではなく「集まる」を基本にして、年度ごとの活動テーマをもとに、人脈とともに活動の拠点を維持しながら、尊い「焼津市赤い羽根共同募金 地域福祉促進助成事業」「静岡県コミュニティづくり推進協議会 コミュニティ活動集団助成事業」「公益財団法人さわやか福祉財団 地域助け合い基金助成事業」等これまで活動財源の開拓に努め、港地域の課題を学習化する活動を展開し、下記の通りその年度の検証結果を地域住民に情報発信してきた。

■1年目(2019年度)

活動テーマ【港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する】

約5,000世帯をもって構成されている「港地域づくり推進会」(港第14・23自治会)管内において、今まで地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり会話を交わし、ふれあい交流し普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ55の既存の各種団体・グループを把握し、「集める居場所から集まる居場所」を課題提起した。

■2年目(2020年度)

活動テーマ【港地域のご近所を切り拓くパート2—協働による地域課題解決を探る】

管内関係団体や住民に機会があるごとに情報を提供し、改めてこうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を掛け「ご近所福祉 その意識と実態調査」に取り組み、地域で顔の見える“近助”的な関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きかけた。

■3年目(2021年度)

活動テーマ【港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る】

港地域の現状を踏まえ地域を家庭化し、誰もが地域づくりに関われるご近所を“地域の居場所”としていく活動に取り組むとともに、子どもを対象に管内関係団体・学校関係者の協力により「福祉ってなに? 244名の子どもたちにききました調査」に取り組み、尊い子どもたちからの意見を大人社会への提言としてまとめた。

■4年目(2022年度)

活動テーマ【わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る】

「みんなで創る福祉を学ぶ講座」を開講し、「子どもたちから大人社会への提言」を改めて地域住民と共有する学習の機会を持った。長引く厳しいコロナ禍の中で、「高齢者を取り巻く地域環境を危惧し、「地域共生社会を拓く～ホッとする地域づくりは誰が担うか～」を掲げて、「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」に取り組み、管内の315名の高齢者から尊い意見をいただき、地域社会に向けて「ホッとする地域づくり」を問題提起した。県域を対象に活動している「静岡福祉文化を考える会」と協働で「地域共生社会調査研究部会」を設置し、地域共生社会をめざす仕組みを検証した。

■5年目(2023年度)

活動テーマ【港地域のニーズ把握から“福祉文化としての港地域のご近所を描く”】

地域社会では、中学生の地域参加を大いに期待しながらも、地域コミュニティの希薄化、家庭・家族機能やご近所福祉が多様化するとともに、加えて厳しいコロナ禍下にあって、若者との日常的な交流環境には至っていない。管内の中学生対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる地域社会づくりに、若者の地域参加の必要性を呼びかけ、地域社会の活性化と、地域づくりの再構築を検証する目的で、「私にとって“ご近所”とは、中学生の意識と実態調査」を実施した。

協働団体の「静岡福祉文化を考える会」とともに、「共創社会実現研究会」を設置(10回開催)し、管内2つの中学校(小川・港中学校)をはじめ、小川地区及び港地区のコミュニティ推進組織、焼津市民生委員児童委員協議会、さわやかクラブ連合会やいづ等の協力のもと、中学生からの意見をまとめ、「若者が参画できる地域づくりに向けた大人社会への提言」としてまとめ、地域社会に働きかけた。

■6年目(2024年度)

活動テーマ【活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する】

5年間の活動から浮き彫りにした検証事項「地域ぐるみの居場所」「ご近所の支え合い」「子どもを取り巻く地域」「高齢者を取り巻く地域」「中学生のご近所の意識と実態」を改めて振り返りながら、ホッとする「ご近所福祉」について、会員の身近なご近所の現状をもとに研究協議をした。

併せて、協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、「共創社会実現研究会」を設置(全8回)し、地域福祉教育教材として作成し10年間、「若者発 ご近所福祉かるた」を配布提供してきた、関係団体・地域実践者・居場所設置地域等に「活用状況調査」を実施し、実践的体験的学びの内容を、「若者発 ご近所福祉活用事例集」に取り入れ、成果物を広く県内各領域に配布提供した。

いよいよ2025年度は、本会活動7年目に入る。これまでの取り組みをもとに、引き続き、“ご近所福祉”を身近に語り合う活動を検討していきたい。

2024年度活動テーマ「活動5年間の調査研究事業実績から“ご近所福祉”を検証する」

●令和5年度「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」を検証議論

2024年度は、「活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する。」を活動テーマに掲げ、これまで実施した「調査の検証」について、毎月の定例研究会で議論をしている。今回は、2月定例研究会（2月8日開催）で検証した、本会5年目の「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」の議論を紹介する。

●令和5年度「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」に取り組む

本会結成5年目は、尊い市民の赤い羽根共同募金「赤い羽根助成事業」により、「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」を実施した。この事業を実施するにあたり、めざす目標の共有・地域資源の共有・活動の歩調の共有・対等な関係の機能の共有を念頭に、「協働団体：静岡福祉文化を考える会」と、地域社会の現状認識、計画に基づく円滑な調査の展開協議(調査個票作成、調査集計・分析、調査結果考察、調査報告書編集、調査公表検討等)の議論や、調査結果をもとに、地域の教育力、次世代の地域の担い手の育成の課題や、若い世代の積極的な地域参加できる地域環境を醸成し、世代を超えた地域ぐるみの支え合いにより、地域共生社会づくりのあり方を大人社会に提言する目的で「共創社会実現研究会」設置した。

管内2つの中学校「焼津市立小川中学校」「焼津市立港中学校」との協議を積み重ね、生徒の主体的な調査活動への協力をお願いした。地縁組織の「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」への協力も呼び掛けた。関連団体の「さわやかクラブ連合会やいづ」「焼津市民生委員児童委員協議会」には、本事業のご理解を文書でお願いをした。

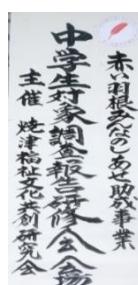
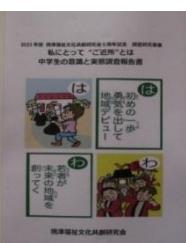
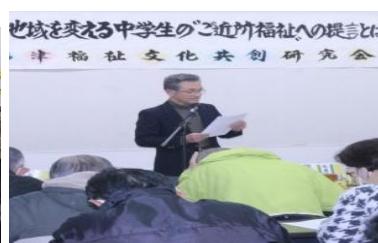
○調査票・項目の検討：「第1回共創社会実現研究会(調査部会)」を開催 「本事業計画」「調査実施要項」「調査票」作成等を協議。その後、管内2つの中学校との協議。

○調査依頼(実施期間)：2つの中学校に、正式調査協力依頼文書をもって「調査票」(各校生徒数分を届けた。地縁組織の「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」等へ経過報告。

○回収・入力(単純集計)期間：「第4回共創社会実現研究会(調査部会)」開催。小川中学校より、調査票回答281枚、港中学校より調査票回答195枚届く。合計476枚回答(全体の81%)

○調査協力 烧津市立小川中学校 烧津市立港中学校 小川地区コミュニティ推進会 港地域づくり推進会 烧津市民生委員児童委員協議会 さわやかクラブ連合会やいづ

○2024年2月3日(土)、石津コミュニティ防災センターにおいて、「調査報告会」を開催。学校関係者、自治会・町内会、民生委員の皆さん等30名が参加し、熱心に意見を交わした。



●「5年目の調査検証」考察概要

1. 本会の地域の課題発掘の「調査活動」5年間のプロセスから、学校・地域との「協働」による地域活動を検証する「調査研究事業」として、2つの学校の全面的協力で実施した。小川・港2つの中学校の生徒から、約81%の協力により回答をいただいた。本会は、結成の目的からも、決して課題を解決するためのグループではなく、あくまでも地域の課題をその都度掘り起こし、地域社会に問題提起をし、市民の皆さんがあれぞの立場で、話題にし、また各領域で、参考にしていただく目的を持つ。
2. 中学生の意見から、小地域における地域の支え合いの仕組みの“アイディア”を考える機会をつくる。中学生は、しっかりと地域社会を受け止め、地域が抱えている課題を認識している。若者の意見を大人社会がしっかりと受け止めて地域づくりに活かす努力。
3. 476名の中学生から、「大人社会への15の提言」としてまとめた。
 - (1)多彩な趣味・特技を持つ中学生の持ち味を、地域活動の場で活かしてみたい回答約4割。
地域参加の糸口(きっかけ)をつくる機会を、常にコミュニティ組織運営において心掛けたい。
 - (2)いまの生活環境に満足をしている中学生であり、ホッとする居場所(家庭・自分の部屋)も心得ている。家族とも楽しく生活している環境だと回答のある中で、悩みごとを8割の中学生は持つ。
 - (3)大人への成長過程で、抱えている悩みを相談できる相手は、家族から友人へと変化をしている。父親の存在が見え隠れしている傾向が伺える。語れる家庭環境づくりを心掛けていく。

- (4) 友人関係は幅が広く、お互いに話せる環境は維持できていると受け止められる
 (5) 大人社会を取り巻く家庭環境にあって、「家事労働」の位置づけは、小学生と比較すれば減少傾向。
 (6) コミュニティ組織運営の認識や理解は、希薄化傾向にある。日頃から近隣社会の共助のあり方を大人社会から意識を高め合い、中学生を地域社会につなげる工夫をしていきたい。
 (7) 誰もが、安心して暮らせる地域である回答が6割、まだまだお互いに努力をしていく必要の回答。自分から進んでいさつをする回答が約3割。
 (8) 中学生の持ち味を發揮する意見で、楽しい行事を創る「トータルコーディネート機能」を期待。
 (9) 住みよい地域であるとの回答が92%あった。福祉視点からは、ご近所づきあいが良い回答。
 (10) 身近な地域の情報入手は「家族」が一番多い回答。「回覧板」からの情報入手を心得ている。
 (11) 身近な地域社会の中で、日常的なふれあい交流や実体験の機会をもたない回答が93%。
 (12) 必要な支援やサービスの回答は、「見守り・声掛け(安否確認)」「災害時の手伝い」「買い物支援」「話し相手」「簡単な介助・介護」「移動支援」「定期的なふれあいサロン」「配食」等、大人社会に求めた回答とほぼ同じ内容の回答。
 (13) 「ともに、助け合う地域づくりへの提言」(自由意見)から、①若者にもわかる、地域活動の動きを知りたい。(地域活動の「見える化」「わかる化」) ②若者の意見を地域活動に活かせる機会を考えてほしい。(誰もが参画する地域づくり) ③若者も気軽に、地域の行事に参加出来る呼掛けを期待したい。(気軽に参加できる環境) ④ご近所で、いつでも、地域のことが話せるようにして、住民が地域に関心をもつ努力。⑤地域の情報提供の工夫。(広報啓発の開拓)
 (14) 地域に貢献したい回答が多い。大人社会は、地域参加の役割分担を明確に示すこと。
 (15) 「赤い羽根共同募金活動」を地域全体で取り組む努力。



シリーズ⑪ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。 今回は「と」「な」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、事務局まで



何か一つは、他人に誇れる趣味・特技を誰もが持ち合わせています。「地域デビュー」で生きがいづくりに心掛けていきましょう。



日頃から、ご近所さんに相談できる地域環境づくりに心掛けましょう。困った時には、「三人寄れば文殊の知恵」です。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(1/18~3/1)

1/18 焼津市V連絡協議会代表者会出席(実施報告書様式配布有)

1/22 関係団体会議で、本会活動状況報告

2/08 研究会通信第66号編集・配布・メール送信作業

2/15 第71回定例研究会開催

2/25 研究会通信第67号編集作業実施

3/01 令和7年度活動計画検討 研究会通信第67号配布・メール送信作業

*今後の予定 3/08 第4回焼津市V連代表者会開催(令和6年度活動実施報告書提出)

3/27 第72回定例研究会開催



研究会QRコード 考える会QRコード